

特集にあたって

2021年も折り返し地点。しかし、新型コロナウイルスによるパンデミックはいまだ収束に至らず、社会的にも大きな制限が続いています。

この約1年半、医療の現場で働くわれわれは未知のウイルスに対し、もてる知識と技術を総動員して対応してきました。インフルエンザなどの従来の感染症とは異なる病態に悩み、通常の診療が思うようにできないことに困惑しながら、現場で知恵と工夫を絞り出し、現在も患者とウイルスに向き合っています。このような状況のなか、未知の課題を解決するため、“基礎知識”に立ち返って考え、答えを導き出そうとした医療従事者も少なくないでしょう。

今回の臨時増刊号では「迷わないための基礎知識Ⅱ」と題し、「救急診療に必要な解剖・生理・生化学的知識」を集約した特集を企画しました。救急診療における検査や処置の方法といったハウツー本ではなく、「なぜ?」「どうして?」を解決するための基礎知識に焦点を当てた特集です。

本特集のテーマは、2001年の本誌臨時増刊号で「迷わないための基礎知識」として取り上げたものです。20年前の増刊号は、医局の本棚で表紙は色褪せていますが、解剖学・生理学という普遍的な内容はまったく色褪せることなく、振り返って本を開いたときに未知の課題に対する答えを探す手がかりを教えてください。今回、「迷わないための基礎知識Ⅱ」と題して再び同じテーマを特集するにあたり、よりわかりやすく章・項目を整理して、一部新たな項目も追加しました。これから先の20年、いつでも振り返ることのできる“基礎知識”が、ここに詰まっています。

新型コロナウイルス感染症に向き合い、悩む現在の医療従事者と同じように、この先も遭遇するであろう未知の病に立ち向かうとき、この臨時増刊号に整理された“基礎知識”が本棚から解決の糸口を差し出してくれる。それを願い、本特集をお届けいたします。

『救急医学』編集委員会

企画担当：名古屋市立大学大学院医学研究科先進急性期医療学分野 松嶋 麻子